

接続検討回答書

(特別高圧版)

様式 AK7-20210416

回答日 年 月 日

1. 申込者等の概要

申込者	
検討者	

2. 接続検討の申込内容

発電者の名称	
発電場所（住所）	
最大受電電力	
アクセス設備の運用開始希望日	

3. 接続検討結果

(1) 希望受電電力に対する連系可否

(a) 連系可否：可・否（※但し、「(5) 申込者に必要な対策」が必要となります）
・ノンファーム型接続：適用・非適用

(b) (連系否の場合) 否とする理由：

(c) (連系否の場合) 代替案または代替案を示せない理由：

(d) (連系否の場合) 連系可能な最大受電電力：

(2) 系統連系工事の概要（工事費負担金工事以外も含めた全ての工事）

(a) 送電経路図

(b) 工事概要図（ノンファーム接続の場合、対象設備の制御概要も含む）

(c) 連系点・送電線ルートを選定理由：

(d) 工事の必要性と設備規模：

(3) 概算工事費及び工事費負担金概算

○概算工事費及び工事費負担金の総額（内訳を含む）

概算工事費の総額 百万円（消費税等相当額 百万円を含む）

工事費負担金の総額 百万円（消費税等相当額 百万円を含む）

設備区分		工事費負担金概算（百万円） （消費税等相当額を除く）	概算工事費（百万円） （消費税等相当額を除く）
内 訳	架空線工事		
	地中線工事		
	変電設備工事		
	給電設備工事		
	通信設備工事		
	計量設備工事		
	その他		
一般負担の上限額超過分			
総額（消費税等相当額を除く）			

○概算工事費の対象設備（算定根拠）

設備区分	項目	新設	建替・張替・取替	改造・改修・撤去	備考（設備機器・材料の仕様、工事方法等）
架空線	支持物（鉄塔）	基	基	基	
	電線	km	km	km	
地中線	管路	km	km	km	
	マンホール	箇所	箇所	箇所	
	電力ケーブル	km	km	km	
変電設備	引出設備	回線	回線	回線	
	変圧器	台	台	台	
	調相設備	式	式	式	
	保護継電装置	式	式	式	
	転送遮断装置	式	式	式	
給電設備	システム改修	式	式	式	
通信設備	通信装置	式	式	式	
	自動検針装置	式	式	式	
	光ケーブル	km	km	km	
	メタルケーブル	km	km	km	
計量設備	計量器	台	台	台	
	計器用変成器	台	台	台	
その他	調査測量費・用地取得費・設計費等（一式）				

※ 項目ごとの概算工事費の提示を求める場合は、秘密保持誓約書を提示して頂く必要があります。

○工事費負担金概算の対象設備（算定根拠）

設備区分	項目	新設	建替・張替・取替	改造・改修・撤去	備考（設備機器・材料の仕様、工事方法等）	特定負担の設備分類
架空線	支持物（鉄塔）	基	基	基		
	電線	km	km	km		
地中線	管路	km	km	km		
	マンホール	箇所	箇所	箇所		
	電力ケーブル	km	km	km		
変電設備	引出設備	回線	回線	回線		
	変圧器	台	台	台		
	調相設備	式	式	式		
	保護継電装置	式	式	式		
	転送遮断装置	式	式	式		
給電設備	システム改修	式	式	式		
通信設備	通信装置	式	式	式		
	自動検針装置	式	式	式		
	光ケーブル	km	km	km		
	メタルケーブル	km	km	km		
計量設備	計量器	台	台	台		
	計器用変成器	台	台	台		
その他	調査測量費・用地取得費・設計費等（一式）					

※項目ごとの概算工事費の提示を求める場合は、秘密保持誓約書を提示して頂く必要があります。

○工事費負担金の対象範囲の設定根拠

（４）所要工期（発電設備等の運転に必要な設備の運用開始までに必要な期間）

工事費負担金の入金後 年 ヶ月程度

○概略工程表

(5) 申込者に必要な対策

発電者側（受電側）接続検討申込書でご提示頂いた内容に対する適合状況及び必要な対策内容は以下のとおりです。

	項目	適合状況	適合しない場合の追加対策内容	根拠
①	電気方式・受電電圧	適・不適・その他 ()		
②	発電機定数	適・不適・その他 ()		
③	力率	適・不適・その他 ()		
④	発電設備等の運転可能周波数	適・不適・その他 ()		
⑤	周波数調整機能	適・不適・その他 ()		
⑥	周波数リレーの整定値	適・不適・その他 ()		
⑦	電圧変動対策	適・不適・その他 ()		
⑧	出力変動対策	適・不適・その他 ()		
⑨	電力品質対策	適・不適・その他 ()		
⑩	系統安定度対策	適・不適・その他 ()		
⑪	短絡・地絡故障電流対策	適・不適・その他 ()		
⑫	保護装置	適・不適・その他 ()		
⑬	中性点接地装置・電磁誘導障害対策	適・不適・その他 ()		
⑭	自動負荷制限装置・発電抑制	適・不適・その他 ()		
⑮	線路無電圧確認装置	適・不適・その他 ()		
⑯	保安通信用電話設備	適・不適・その他 ()		
⑰	給電情報伝送装置	適・不適・その他 ()		
⑱	F R T要件	適・不適・その他 ()		

⑱	発電出力の抑制機能	適・不適・その他 ()		
⑳	その他			

※根拠欄が示すものは以下の通り

- (a) 送配電等業務指針【電力広域的運営推進機関】（●●年●月●●日）
- (b) 託送供給等約款【●●株式会社】（●●年●月●●日）
- (c) 系統連系技術要件【託送供給等約款別冊】【●●株式会社】（●●年●月●●日）
- (d) 電力品質確保に係る系統連系技術要件ガイドライン【資源エネルギー庁】（●●年●月●●日）
- (e) 電気設備の技術基準の解釈【経済産業省商務流通保安グループ電力安全課】（●●年●月●●日）
- (f) 系統連系規程※追補版を含む【一般社団法人日本電気協会】（●●年●月●●日）
- (g) 系統アクセスルール【●●株式会社】（●●年●月●●日）
- (h) 設備形成ルール【●●株式会社】（●●年●月●●日）
- (i) その他（必要により記載）

（6）接続検討の前提条件

- (a) 検討対象年度：
- (b) 検討断面：
- (c) その他：

（7）運用上の制約

- (a) 制約有無：あり・なし
- (b) 上記(a)の判断の根拠および条件：
- (c) ノンファーム型接続の適用に係る抑制：

（8）その他

4. 今後の手続について

（1）契約申込みについて

- ・系統連系にあたっては、当社（本回答書1.に記載の「検討者」）に対し契約申込みを行って頂いた上で、当社との間で系統連系に関する契約を締結することが必要となります^{*1}。
- ・契約申込みにあたっては、本回答書3（5）に記載する「申込者に必要な対策」等が具備されている必要があります。また、電力広域的運営推進機関（以下「広域機関」といいます。）の業務規程第74条の2（発電設備等に関する契約申込みにおける保証金の算定方法）の規定に基づく保証金を支払う必要があります^{*2}。
- ・契約申込みの受付後に発生する変更にあたっては、広域機関が示す「契約申込み後の軽微な変更の典型例」（2019年4月1日発信）に基づき、判定を行い、軽微な変更該当しない場合は、広域機関の送配電等業務指針第94条（送電系統の容量確保の取消し）第4号の規定に基づき、暫定確保した容量を取り消した上で再度接続検討が必要となります。

- ・ 契約申込み後に、予定した用地の取得が困難になった場合や貴社都合による計画変更等に時間を要する場合でも、契約申込み時にいただいた申込内容をもとに回答（連系承諾を含む）させていただきます。ただし、貴社都合によらず行政手続に時間を要している場合等で、連系承諾に先立ち、時間を要する合理的な理由や不可抗力により時間を要しているという状況の説明がある場合はこの限りではありません。
- ・ 契約申込みに対する回答後（連系承諾）に工事費負担金契約の締結や工事費負担金の支払いを行わない場合は、広域機関の送配電等業務指針第97条（送電系統の容量の確定）第2項第1号及び第2号の規定に基づき、送電系統の容量が取消しになるとともに、同指針第105条（連系承諾後に連系等を拒むことができる場合）の規定に基づいて、接続契約が解除されますので、契約申込みにあたってはご注意ください。
- ・ 貴社が契約申込みを行い、当社が契約申込みを受け付けた場合であっても、系統連系工事に広域連系系統^{※3}の増強が含まれる場合には、広域機関の計画策定プロセス^{※4}が開始される可能性があります。
- ・ 貴社が系統連系工事に広域連系系統の増強が含まれる契約申込みを行い、当社が契約申込みを受け付けた場合、広域機関は計画策定プロセス開始の要否を確認し、広域機関からその結果について連絡があります。広域機関が計画策定プロセスを開始した場合、貴社の契約申込みに対する検討及び回答は行われません。
- ・ ノンファーム型接続による接続が可能となる範囲の場合には、契約申込み受付時にノンファーム型接続への同意が必要となります。
- ・ 広域機関の送配電等業務指針第107条（連系された発電設備等の契約内容の変更）の規定により、法令、事業計画の変更等により、連系された発電設備等の最大受電電力を減少した場合又は発電設備等の廃止を決定した場合には、当社に対して、速やかに契約内容の変更又は契約の終了に関する契約申込み手続を行う必要があります。この場合において、広域機関の送配電等業務指針第124条（電源廃止等により10万キロワット以上連系可能量が増加する場合の取扱い）の規定により、当社は、休廃止等手続により、連系可能量が10万キロワット以上増加することが確実に見込まれるときは、当該手続により増加する連系可能量等を公表します。詳細については、広域機関の「業務規程第80条の規定に基づく電源接続案件一括検討プロセスの実施に関する手続等について10.10」をご参照ください。

※1 次のア～エいずれかに該当する場合は、契約申込みを受け付けることができません。

ア 系統連系工事が電源接続案件一括検討プロセスの対象となる可能性がある場合

イ 接続検討の回答後、発電設備等の連系先となる送電系統において電源接続案件一括検討プロセスが開始された場合

ウ 接続検討の回答日から1年を経過した場合

エ 広域機関の送配電等業務指針第120条の4（電源接続案件一括検討プロセスの開始）第1項第5号に掲げる場合

※2 広域機関の送配電等業務指針第88条の2（発電設備等に関する契約申込みの保証金）第3項の規定に基づき、貴社が支払った保証金は貴社が負担する工事費負担金に充当します。また、広域機関の送配電等業務指針第88条の2第4項各号の規定に該当する場合は、貴社が支払った保証金を返還します。

※3 広域連系系統とは、次のア～エの流通設備となります。

- ア 連系線（一般送配電事業者たる会員の供給区域間を常時接続する250キロボルト以上の送電線及び交直変換設備）
- イ 地内基幹送電線（最上位電圧から2階級（供給区域内の最上位電圧が250キロボルト未満のときは最上位電圧）の送電線
- ウ 最上位電圧から2階級（供給区域内の最上位電圧が250キロボルト未満のときは最上位電圧）の母線
- エ 最上位電圧から2階級を連系する変圧器（供給区域内の最上位電圧が250キロボルト未満のときは対象外）

なお、系統連系工事に広域連系系統の増強が含まれる場合、当社は、広域機関の送配電等業務指針第85条（接続検討の回答）第3項に基づき、本接続検討に関する申込概要及び回答概要を広域機関に報告いたします。

※4 広域連系系統の整備に関する個別計画の策定のための手続

（2）計画策定プロセス（広域系統整備に関する提起）について

ア 広域連系系統の増強について（地域間連系線を除く）

- ・ 貴社は、系統連系工事に含まれる広域連系系統の増強について（地域間連系線を除く）、広域系統整備に関する提起を行うことができる電気供給事業者（**該当いたします・該当いたしません**）。
- ・ 貴社が広域系統整備に関する提起を行い、広域機関の業務規程及び送配電等業務指針に定める要件を満たす場合、広域機関は計画策定プロセスを開始し、広域連系系統の増強工事の内容や工事費負担金等を改めて検討します。

イ 地域間連系線の増強について

- ・ 貴社は、地域間連系線の増強について、広域系統整備（地域間連系線の増強）に関する提起を行うことができる電気供給事業者（**該当いたします・該当いたしません**）。但し、貴社が、振替供給を希望する場合で、利用を希望する地域間連系線の空容量が不足しているときに限ります。
- ・ 地域間連系線の空容量は、広域機関ウェブサイトの系統情報サービスで確認することができます。
- ・ 貴社が広域系統整備に関する提起を行い、広域機関の業務規程及び送配電等業務指針に定める要件を満たす場合、広域機関は計画策定プロセスを開始し、地域間連系線の増強工事の内容や工事費負担金等を検討します。

ウ 計画策定プロセスに関する問合せ等

- ・ 計画策定プロセスの詳細については、広域機関ウェブサイトをご確認いただくか、広域機関に直接お問い合わせください。

（3）電源接続案件一括検討プロセス開始の申込みについて

- ・ 貴社は、電源接続案件一括検討プロセス^{※5}開始の申込み^{※6}を行うことができる系統連系希望者に（**該当いたします・該当いたしません**）。

- ・ 貴社が電源接続案件一括検討プロセス開始の申込みを行い、広域機関の送配電等業務指針に定める要件を満たす場合^{※9}、当社は電源接続案件一括検討プロセスを開始します。
- ※5 電源接続案件一括検討プロセスとは、効率的な系統整備の観点等から、特別高圧の送電系統（特別高圧と高圧を連系する変圧器を含む）の工事（保護継電器により発電抑制を実施する場合は除く）に関して、公平性及び透明性が確保された手続によって、必要な工事費負担金を共同負担する系統連系希望者を募集する手続をいいます。
- ※6 電源接続案件一括検討プロセスは、接続検討の回答において系統連系工事の規模等に照らし、対象となる送電系統が効率的な系統整備の観点等から電源接続案件一括検討プロセスの対象となる可能性がある場合^{※7}に当社に対し申込みを行うことができます^{※8}。
- ※7 広域機関の「業務規程第80条の規定に基づく電源接続案件一括検討プロセスの実施に関する手続等について1.3」に基づき、効率的な系統整備の観点等から、以下の設備工事は対象外となります。
 - ア 発電設備等の設置場所から既設送電系統の連系点までの間に新設する設備
 - イ 配電用変電所におけるバンク逆潮流の対策に必要な設備
 - ウ N-1故障時に発電抑制を実施できるようにするための設備
- ※8 次のア～ウいずれかに該当する場合は、電源接続案件一括検討プロセス開始の申込みを行うことはできません。
 - ア 系統連系工事に広域連系系統の増強工事が含まれる場合で、系統連系希望者が、広域機関の業務規程第51条（計画策定プロセスの開始）第1項第2号の規定に基づき広域系統整備に関する提起を行っている場合
 - イ 接続検討の回答後、発電設備等の連系先となる送電系統において電源接続案件一括検討プロセスが開始された場合
 - ウ 接続検討の回答日から1年を経過した場合
- ※9 広域機関の送配電等業務指針第120条の4（電源接続案件一括検討プロセスの開始）第1項の規定に該当しない場合は、効率的な系統整備の観点等から電源接続案件一括検討プロセスは開始されませんのでご注意ください。

（4）休廃止等手続に起因している系統連系希望者等について

- ・ 貴社は、広域機関の送配電等業務指針第124条（電源廃止等により10万キロワット以上連系可能量が増加する場合の取扱い）の規定による休廃止等手続の対象とする送電系統（増加連系可能量等を公表している変電所又は開閉所と同一系統等）において、当該休廃止等手続に起因している休廃止等手続を行った発電事業者又は当該発電事業者と一定の資本関係又は契約関係を有する^{※10}系統連系希望者に（該当いたしますので、休廃止等手続に伴う増加連系可能量等の公表日から12か月が経過するまでの間において、当社は、貴社から当該休廃止等手続の対象となる送電系統を対象として暫定容量を確保する契約申込みの申込書類を受領した場合で、系統連系希望者間の情報取得の公平性の観点から一括検討を開始することが必要と判断

したときは、その申込みを受け付けず、電源接続案件一括検討プロセスを開始いたしません・該当いたしません）。

※10 一定の資本関係又は契約関係を有する者とは、休廃止等手続を行った発電事業者及び当該発電事業者と以下に掲げる資本関係又は契約関係を有する者とする。

ア 資本関係を有する者 次の①及び②に掲げる者

① 当該発電事業者の親子法人等

② 当該発電事業者の関連会社（財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則（昭和38年11月27日大蔵省令第59号）第8条に定める者をいう。以下同じ。）並びに当該発電事業者の親子法人等の関連会社

イ 契約関係を有する者 次の①から③に掲げる者

① 当該発電事業者と新設発電設備等を共同で開発又は維持、運用する契約を締結し、又は、締結することを予定している電気供給事業者

② 当該発電事業者と新設発電設備等から発電される電気を受給する契約（FIT法に基づく特定契約を除く。）を締結し、又は、締結することを予定している電気供給事業者

③ イの①及び②に掲げる電気供給事業者とアに掲げる資本関係がある者

（5）10万キロワット以上の既設の発電設備等の停止又は発電抑制を前提とした接続 検討について

- ・ 貴社の新設発電設備等の最大受電電力は、既存の連系可能量^{*11}の範囲を超過（いたします。・いたしません。）。（広域機関の送配電等業務指針第85条（接続検討の回答）第2項第3号）
- ・ 貴社は、停止又は発電抑制の対象となる最大受電電力が10万キロワット以上の既設の発電設備等を所有する系統連系希望者（に該当いたしますので、貴社・と一定の資本関係又は契約関係を有する系統連系希望者に該当いたしますので、既設の発電設備等を所有する系統連系希望者）が休廃止等手続を行い、休廃止等手続に伴う増加連系可能量等の公表日から12か月が経過するまでの間において、当社は、貴社から当該休廃止等手続の対象となる送電系統を対象として暫定容量を確保する契約申込みの申込書類を受領した場合で、系統連系希望者間の情報取得の公平性の観点から電源接続案件一括検討プロセスを開始することが必要と判断したときは、その申込みを受け付けず、電源接続案件一括検討プロセスを開始いたします。
- ・ 10万キロワット以上の連系された発電設備等の廃止^{*12}が決まった場合には、速やかに当該廃止の内容について供給計画に記載し、広域機関に提出する必要があります。（広域機関の送配電等業務指針第12条（発電設備の廃止計画の提出））

また、次のア～エに該当する場合は、次のア～エに掲げる内容にしたがって、速やかに、契約申込みを行って頂く必要があります。

ア 連系された発電設備等の最大受電電力が10万キロワット以上減少する場合 契約内容の変更に係る契約申込み

イ 最大受電電力が10万キロワット以上の連系された発電設備等のリプレース^{*13}（一部リプレースは除く）を決定した場合 契約の終了に係る契約申込み及び新設発電設備等に係る契約申込み

ウ 最大受電電力が10万キロワット以上の連系された発電設備等の一部リプレースを決定し

た場合 契約内容の変更に係る契約申込み（具体的には、連系された発電設備等の一部リプレースに相当する最大受電電力減少の契約変更申込みを行う。）

エ 最大受電電力が10万キロワット以上の連系された発電設備等の廃止を決定した場合 契約の終了に係る契約申込み

- ・最大受電電力が10万キロワット以上の連系された発電設備等の設置者は、前項のア～エに該当する場合を除き、発電設備等の全部の変更のうち、いずれかの設備の変更を伴う契約内容の変更に係る契約申込みを行う場合には、当社に対し、その申込みの年度の前々年度から翌々年度までの合計5年度における同一発電場所における他の工事実績及び計画（予定分を含む。）等を書面にて申告する必要があります。
- ・休廃止等手続により10万キロワット以上連系可能量が増加する場合の取扱いの詳細については、広域機関の「業務規程第80条の規定に基づく電源接続案件一括検討プロセスの実施に関する手続等について10.10」をご参照ください。

※11 既存の連系可能量とは、停止又は発電抑制の前提とされた既設の発電設備等が連系している条件での送電設備（停止又は発電抑制の前提とされた既設の発電設備等に係る電源線を除く）の連系可能量をいいます。

※12 廃止には発電設備等の出力や最大受電電力を10万キロワット以上減少させる場合を含みません。

※13 リプレースとは、同一地域で発電設備等の全部の変更（1発電場所において複数の発電設備等が設置されている場合は一部の発電設備等の全部の変更（以下「一部リプレース」という。）及び発電設備等の全部の変更を伴う電源種別の変更を含む。）を行う事案を指す。また、「発電設備等の全部の変更」とは、発電機及びタービン等専ら発電の用に供し、発電設備と一体不可分な設備の大宗を占める部分の変更（更新を含む。）をいう（詳細は広域機関の「業務規程第80条の規定に基づく電源接続案件一括検討プロセスの実施に関する手続等について別紙8」をご参照ください）。

5. 添付資料

以上